

三好市東祖谷地区の民間薬調査

民間薬調査班 (徳島生薬学会)

川添 和義* ¹	伏谷 秀治* ¹	柏田 良樹* ²	田中 直伸* ²	岡坂 衛* ²	石田 俊介* ²
鎌倉 孝法* ²	佐藤 昌俊* ²	橋田 千佳* ²	西迫 寛隆* ¹	田島壮一郎* ¹	森 剛志* ¹
鈴木 恭子* ²	橋田 和佳* ²	部屋衣美子* ²	高田 千絵* ²	遠藤 友香* ³	金 尚永* ³
田岡 寛之* ³	西村 和也* ³	高石 喜久* ²	水口 和生* ¹		

要旨： 徳島県下で伝承されている医薬品（民間薬）調査の一環として、三好市東祖谷地区における民間薬調査を行った。戸別訪問によるインタビュー形式で、現在利用しているまたは過去に利用していた民間薬について、その名称、利用目的、利用方法について尋ねた。その結果、251名の人から回答を得て、1,652件の情報を収集することができた。品目は重複しているものが多く、約180品目が確認できた。また、「イシャイラズ」などよばれる民間薬についても調査した。その結果、アロエ、ゲンノショウコが主にこの地域で「イシャイラズ」などと呼ばれていることがわかった。

キーワード： 伝承薬、薬草、調査研究、東祖谷山村、イシャイラズ

1. はじめに

民間薬は伝承医薬の一形態であり、主に口伝により代々受け継がれているものである。医学未開の時代においては疾患を治療する唯一の手だてとして、各地域、各家庭に継承されてきた医療文化の一つである。漢方薬をはじめとする伝承医薬にはわれわれがまだ明らかにできていない部分が多くあり、今後、さらに多方面からの研究を進めることにより、伝承医薬品は新しい医薬品や治療法の開発につながることを期待でき、重要なものである。しかし、医療技術と健康保険制度の発達により、全国民が遍く低価格で治療を受けることができる今日において、その存在価値は薄れ、さらに継承の担い手である若年者が年々少なくなっていることから、民間薬継承は風前の灯火となっている。この医薬品文化は一旦消滅すると二度と復活することはなく、薬学的にも民俗学的にも貴重なわが国の遺産として、逸失する前に記録、保存していくことが急務である。

三好市東祖谷地区（旧東祖谷山村）（以下、当地

区）は山深い地域であるため独自の文化が色濃く残っている地域であり、また、高知県に隣接することから他では見られないユニークな文化が継承されている地域である。しかし、本地域の過疎化・高齢化は急速に進んでおり¹⁾、文化情報の収集が急がれる。本地域における民間薬の調査は昭和47年に東らによって行われているが²⁾、その後、ほとんどなされたことがなかったことから、今回、再度調査することにより、本地域に伝承される民間薬利用の現状を探った。

2. 調査方法

1) 調査期間

調査は基本的に平成18年7月29日から3日間行った。さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

2) 調査形態・内容

調査形態は、1人ないし2人で戸別訪問し、対応してくれた人に対してインタビューした。今回の調査では当地区の住宅地図を参考として、重複してイ

* 1 徳島大学医学部・歯学部附属病院薬剤部

* 2 徳島大学大学院薬科学教育部天然医薬品学分野

* 3 徳島大学薬学部生薬学研究室

インタビューがなされないように留意した。また、調査地点名も記録した。

質問内容は、これまでに利用したことがある、もしくは聞いたことがある民間薬の名前（方言、その他）、利用目的、利用方法、その他の情報に關してである。その際、その薬は植物に限らないことを伝えておいた。また、「イシャイラズ」、「イシャダオシ」またはそれに類似した名称と呼ばれる民間薬があるかどうかを尋ねた。なお、調査対象の情報として、可能な限り年齢、性別、居住年数を記録した。なお、1戸を一単位として調査し、同一内容が繰り返し出現した場合には合わせて一つの情報とした。

3) 同定

薬の実物を見せてもらい、わかるものに関してはその場で同定した。わからなかったものに関してはできる限り標本として採集させてもらったが、持ち帰れないものに関してはデジタルカメラでの写真をもとに同定を行った。また、名前しかわからない場合は、これまでに東祖谷地区で確認されているもの

とした³⁾。学名については巻末に挙げた参考文献によった⁴⁾。

(表1)

3. 調査結果および考察

1) 調査対象

調査対象は男性102名(40.6%)、女性81名(32.3%)、不明68名(27.1%)の合計251名(戸)であった。ただし、夫婦(男女)で回答したものや複数人数で回答したものについても男性1人として数えているため、女性の数は実際より少なくなっている。これは当地区全戸数の約28%に相当する⁵⁾。年齢別では40歳未満8名、40歳代8名、50歳代20名、60歳代50名、70歳代70名、80歳以上33名、不明62名であった。

2) 情報の概要

得られた情報は全部で1,652件あり、これらを由来別に見ると、植物由来1,413件、動物由来214件、鉱物由来6件、加工品・その他19件であった。調査地別、年齢別の件数は表1に示すとおりで、人口が

表1 地域別・年齢別の情報収集件数(件)

		40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
落	合	3	13	16	97	107	29	98	363
菅	生	0	15	11	25	81	96	21	249
久	保	6	3	39	73	67	14	31	233
京	上	3	0	27	11	33	0	46	120
下	瀬	5	0	6	21	38	10	11	91
小	川	0	0	6	20	24	15	24	89
檜	尾	0	0	0	1	29	32	4	66
中	上	0	8	0	5	12	0	27	52
新	居 屋	0	13	6	29	3	0	0	51
釣	井	0	0	0	0	13	14	23	50
西	山	0	0	0	0	22	10	12	44
和	田	0	0	2	22	5	0	13	42
若	林	1	0	6	5	0	7	18	37
名	頃	0	0	6	17	0	4	4	31
大	枝	0	0	0	10	19	0	0	29
栗	枝 渡	4	0	0	0	13	0	9	26
大	西	0	0	12	0	0	0	11	23
九	鬼	0	0	0	0	15	0	3	18
小	島	0	0	0	0	0	10	4	14
	林	0	0	0	0	11	0	0	11
釜	ヶ 谷	0	0	0	0	9	0	0	9
麦	生 土	2	0	0	0	0	0	2	4
	計	24	52	137	336	501	241	361	1,652
	回答者数(人)	8	8	20	50	70	33	62	251
	1人あたりの平均回答件数	3.0	6.5	6.9	6.7	7.2	7.3	5.8	6.6

集中している落合、久保、京上地区で多かったほか、菅生地区からも多くの情報が得られた。年齢別に見ると70歳代からの回答が最も多く、次に60歳代で80歳以上や50歳以下からはあまり多くの情報が得られなかった。また、1人あたり（1戸あたり）の平均回答数は年齢が上がるほど多かった。これは、高齢者ほど民間薬を使用していた経験が多いためと考えられる。なお、1人あたりの回答数で最も多かったのは29品目、最も少なかったのは1品目であった。（表2）

品目は約180種類確認された（表2）。そのうちゲンノショウコ、ドクダミ、センブリ、ニホンマムシ、オトギリソウ、キハダ、オオバコの7種類で全情報数の約半分を占め、上位23品目（起源不明のものを除く）で73%を占めており、起源には偏りが認められた。

3) 利用目的・方法について

全情報のうち用途が明らかなのは約76%にあたる1,262件で、残りの390件はその利用目的がわからないと答えたもの（以下、用途不明）であった。用途不明は、ダイコンソウ（52.0%、括弧内は当該品目の中で用途不明と回答した率）、オオバコ（56.0%）、オトギリソウ（40.2%）、ゲンノショウコ（37.6%）

など上位23品目にも多く見られた（表2）。利用法のわからない民間薬が多く見られるのは、当地区住人が民間薬採集を業としていたことと関連していると思われる。かつて、近隣にある薬草加工会社に採集した薬草を売っていた人が多くいて²⁾、その時に名前は記憶したが利用法については知らなかったというケースが多かったものと考えられる。実際、ゲンノショウコやセンブリを昔は売っていたというコメントを多数から得た。

利用方法は、ほとんどが単味で、複方は約4%であった（単味1,584件、複方68件）。表3に複方として利用されていたものの例を挙げた。複方として利用しているものの中に、わが国に自生がなく、薬店などでしか入手できない甘草 (*Glycyrrhiza* sp.)と合わせて利用すると答えたものが10件あった。これは最近になって出現した利用法であり、メディアや漢方薬の影響が色濃く出ている例として興味深い。（表3）

4) 「イシャイラズ」調査

イシャイラズ、イシャダオシ、イシャゴロシなどと呼ばれる薬草があるかどうかについて尋ねた（表4）。そのような名前と呼ばれるものがあると答えたのは81件で、回答数は、全体の回答数が少なかった

表2 品目別情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が11件以上 (件)							
	情報件数	用途不明	用途不明率(%)		情報件数	用途不明	用途不明率(%)
ゲンノショウコ	173	65	37.6	イタドリ	28	5	17.9
ドクダミ	171	52	30.4	ダイコンソウ	25	13	52.0
センブリ	109	18	16.5	マタタビ	22	2	9.1
ニホンマムシ	104	18	17.3	ユキノシタ	21	0	0.0
オトギリソウ	87	35	40.2	ウツギ	17	1	5.9
キハダ	86	13	15.1	カキノキ	16	4	25.0
オオバコ	84	47	56.0	ウラジロガシ	15	3	20.0
ヨモギ	68	9	13.2	カリン	15	1	6.7
アロエ	59	10	16.9	トウモロコシ	14	2	14.3
アケビ	29	6	20.7	イチイ	11	2	18.2
スギナ	29	9	31.0	ツキノワグマ	11	3	27.3
ニホンザル	29	1	3.4	起原不明	76	16	21.1

b. 情報件数が3~10件	
7~10件 (10品目)	アオゲラ、イワタバコ、ウメ、カワガラス、クズ、トチバニンジン、バイケイソウ、ビワ、フキ、ホウセンカ
5~6件 (12品目)	アザミ、イチヨウ、イノシシ、ウメボシ、シマヘビ、タンポポ、ツツラフジ、ナメクジ、ハチ、ヒガンバナ、フクジュソウ、石
3~4件 (30品目)	アカジソ、アスナロ、アマチャヅル、ウコン、ウド、オモト、カラムシ、カンゾウ、クキイモ、キササゲ、キュウリ、キランソウ、クコ、クリ、コフキサルノコシカケ、スイカズラ、ソバ、ダイコン、タヌキ、タマネギ、トウガラシ、ノリウツギ、ヒイラギ、フユイチゴ、フユノハナワラビ、マツ、ムカデ、メグスリノキ、モグラ、モッコク

表3 複方で用いられている薬材例

使用目的	薬材	使用方法	情報採集地
便秘, 利尿	ドクダミ ゲンノショウコ	併せて煎じて飲む	若林, 久保
神経痛, 胃薬	オトギリソウ ゲンノショウコ	併せて酒に漬けて飲む	久保
風邪	ダイコン ハチミツ	大根おろしとハチミツを一緒にして飲む	檜尾
火傷	ジャガイモ ショウガ	擦ったジャガイモとおろしたショウガを合わせて患部に貼る	西山
腫れもの	ドクダミ フキ	ドクダミをフキの葉に包んで少し炙り, すり潰して患部に貼る	菅生
腎臓病	トウモロコシ(毛) ニワトコ キササゲ(実)	併せて煎じて飲む	菅生
腎盂炎	テッポウユリ トウモロコシ(毛) アスナロ(葉)	併せて煎じて飲む	新居屋
夏に汗が出にくい時	グミ モモ ユスラウメ	併せて焼酎漬けにして飲む	菅生
胃薬	オオバコ ドクダミ	併せて煎じて飲む	菅生
止血	ヨモギ 石	青石(カワイシ)の粉とヨモギを混ぜて利用する(外用)	落合
ウルシかぶれ	スギナ サワガニ	一緒にたたいて布に貼り外用	落合
高血圧	イタドリ フキ アザミ	それぞれの乾燥した根を合わせて煎じる	落合

た39歳以下を除けば、40歳代で比較的少なく、他の年齢層ではあまり差が見られなかった。「イシャイラズ」の薬材は8品目確認できた。アロエが最も多く(アロエの84.3%がイシャイラズなどと呼ばれる)次にゲンノショウコ、ドクダミなどが挙げられ、どの年齢層においてもアロエと回答した人が最も多かった。

アロエやゲンノショウコは全国的にイシャイラズ、イシャゴロシなどと呼ばれることから⁶⁾、当地区でも植物と同時にイシャイラズという名称も導入された可能性が高い。九州ではキランソウをイシャイラズと呼ぶところはいくつかあり、当地区でも2件確認され、関連性に興味を持たれる。(表4)

5) 薬材の名称

標準名ではなく地方名で回答されたものが多くあった。地方名で特に多く回答されたものに、ゲンノショウコ(ミコシグサ82.7%, 括弧内は地方名とその名称で回答した率, 以下同じ), ドクダミ(ジュウヤク71.8%), キハダ(キワダ70.9%), ニホンマムシ(ハメ44.1%) センブリ(センブリ11.9%), カワガラス(サンザイ71.4%) スギナ(トウナ27.6%), ウツギ(ウツゲまたはウツゲノキ76.4%), イ〔動物の胆嚢のこと。例えばクマノイ〕(ユウまたはユ68.4%)などがあった。興味深い地方名として、ホウセンカのことをノギノキと呼ぶが、これは大麦の芒がのどに掛かった時にホウセンカの花を飲むとよくなることからつけられたという。

表4 年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材(件)

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
アロエ	2	1	3	13	12	6	6	43
ゲンノショウコ	0	0	0	2	6	3	4	15
ドクダミ	0	0	1	0	6	0	2	9
キランソウ	0	0	0	0	1	0	1	2
ウツギ	0	0	0	1	0	0	0	1
オナモミ	0	0	0	0	0	0	1	1
センブリ	1	0	0	0	0	0	0	1
マタタビ	0	0	0	0	0	1	0	1
不明	0	0	1	2	1	1	0	8
計	3	1	5	18	26	11	14	81
全体の回答数に対する比率(%)	12.4	1.9	3.6	5.4	5.2	4.6	3.9	4.9

6) 各薬材の利用目的と利用方法

利用目的は多岐にわたっており、また、その表現方法もさまざまであった。風邪、打ち身、発熱、暑気などが適応病名として最も多く見られた。中には腎盂炎、肝硬変といった専門的な病名や「血液さらさら」(本稿では「血液循環改善」と表記)などテレビ等の影響を受けたと思われる回答も多く見られ興味深い。

今回調査で確認された薬材の中で、情報件数の多かった12品目について以下に解説した。その他の薬材については、地方名、利用部位、利用目的、利用方法を表5にまとめた。なお、表5において情報数の極端に少ない使用目的についてはアスタリスク(*)を付した。

ゲンノショウコ *Geranium thunbergii* Sieb. ex Lindl. et Paxton (フウロソウ科)

地方名：ミコシグサ、ニボシグサ、ニボシグスリ、ミコシ、イシャイラズなど

利用目的・方法：有効回答の48% (利用目的を知っていると答えた内の比率、以下同じ) が全草を煎じて胃薬、腹薬として利用するであった。それ以外には保健薬、暑気・熱中症、神経痛、解熱、下痢などが多い。少数ながら夏やせ、肝疾患、腎疾患、頭痛、毒だし、産後の肥立ちに利用するという情報もあった。何にでも使う、万病薬との回答もあり予防薬的にも利用されていた。

ゲンノショウコは調査対象の約7割が民間薬であると回答し、そのうち6割強の人が実際に利用していると答えた。このことから、本植物は本地区で利用される民間薬のうち最も多用されるものの一つであるといえる。

ドクダミ *Houttuynia cordata* Thunb. (ドクダミ科)

地方名：ジュウヤクなど

利用目的・方法：多かったのは解毒、でき物に外用または内服が33%、胃腸薬として内服するが20%であった。これ以外に保健薬としてや、利尿、鎮痛、外傷、解熱、高血圧、肝疾患など幅広く用いられていることがわかった。外用の利用法として、全草をフキの葉に包んで蒸焼きにして貼付する、汁を搾って点鼻する(蓄膿症の治療)など、ユニークなもの

がいくつか見られた。

本植物もゲンノショウコと同程度の認知率で、そのうち7割の人が実際に利用していた。このことからドクダミも本地区で広く利用されている民間薬であることが判明した。

センブリ *Swertia japonica* (Schult.) Makino (リンドウ科)

地方名：センブリなど

利用目的・方法：回答者の95%が全草を胃腸の薬に利用するとした。その他には胸焼け、心疾患、日射病が見られたがごく少数であり、本植物は利用目的が限定されていた。利用方法は全て内服するという回答であったが、煎じると回答したものが59% (利用方法を知っていると回答した内の比率)、茶のように振り出すと回答したものが37%あった。

センブリも販売目的で採集されていたが、8割以上の人がその利用目的を回答していることから、本植物は実際によく利用されていたと考えられる。

ニホンマムシ *Gloydus blomhoffii* (Boie, 1826) (クサリヘビ科)

地方名：ハメ、ハブなど

利用目的・方法：利用部位によって利用目的が異なっている。全体は滋養強壮が最も多く、次いで胃腸病、解熱、暑気などとなっている。利用方法は焼酎に漬けるというのが最も多く、皮を剥いでそのまま食べる、あぶって食べる、黒焼きにして粉にして飲むなども多く見られた。その酒は「ハメシュ」などと呼ばれ、そのまま飲むという回答がほとんどであったが、中には外用に利用するという回答があった。これは暑気に酒を塗るまたは湿布する、子供の発熱時に酒を布などにしみこませて足の裏に一晩貼るなどで、興味深い治療法である。酒は特有の臭気があり飲みにくいのでウイスキーに漬けるという回答もいくつかあり、本地区ではニホンマムシを利用した酒が一般的であることが窺える。部位別では特に皮を焼酎に漬けて利用しているという回答が多く(図1)、用途は外傷や腫れ、発熱に皮を患部に貼り付けるが多かった。また、咬蛇傷に生の皮を貼り付けるもあった。その他の部位として、胆嚢や目を生のまま飲んで滋養強壮に利用との回答もあった。

ニホンマムシの仲間は反鼻と呼ばれ、強壯作用を



図1

目的とした和漢薬材料として古くから利用されてきたが⁷⁾、本地区での利用法もこれに即したものと考えられる。(図1)

オトギリソウ *Hypericum* sp. (オトギリソウ科)

地方名：オトギリスなど

利用目的・方法：神経痛(46%)、胃腸疾患(27%)に利用すると回答したものが多かった。これ以外にはリウマチ、解熱、風邪などあった。また、利用法は全草を煎じるまたは焼酎漬けにするという回答が多かった。しかし、オトギリソウを民間薬として知っていると言った人の4割はその利用法を知らず、また、約半数は使い方を知らないと言った。これは、本植物は主に販売用に採集するのみで実際にはあまり利用されていなかったためと考えられる。

当地区採集のオトギリソウには大小2種類あるという回答があったが、分布より恐らくオトギリソウ (*H. erectum* Thunb.) とサワオトギリ (*H. pseudopetiolatum* R.Keller) と考えられる³⁾。しかし、今回の調査ではほとんどのインタビュー時に実物を見ていないのでどちらも「オトギリソウ」とした。

キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. (ミカン科)

地方名：キワダ

利用目的・方法：胃腸薬と回答したものが最も多く(81%)、それ以外に打ち身に外用する、肝疾患、胸焼けという回答があった。利用部位は樹皮という回答が最も多かった。外用する場合は、小麦粉とともに練って患部に貼るというものが多く見られた。

オオバコ *Plantago asiatica* L. (オオバコ科)

地方名：オバコ

利用目的・方法：主には全草を胃腸疾患、風邪、

発熱、咳止め、利尿に利用するというものであったが、オオバコを民間薬に挙げた人の半数以上は利用目的を知らないと言った。このことから、オオバコは販売目的の採集が主で、実際にはあまり利用されていなかったことが示唆される。

なお、和漢薬では全草を車前草と呼び、利尿、鎮咳、胃腸疾患に古くから利用している⁷⁾。

ヨモギ *Artemisia indica* Willd. var. *maximowiczii* (Nakai) H.Hara 他 (キク科)

地方名：ヨムギ

利用目的・方法：外傷の止血が最も多かった。方法は揉んで汁または葉そのものを患部に付けるというのがほとんどで、中には浴用にするという回答もあった。ヨモギの植物そのものではないが、ヨモギの茎に付く綿のようなもの(図2)を患部に貼り付けて利用するという回答もあった。これはヨモギワタマバエ (*Rhopalomyia giraldii* Kieffer & Trotter) が作る虫瘻のヨモギクキワタフシと考えられる⁸⁾。(図2)

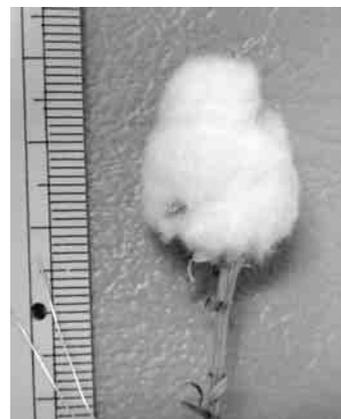


図2

アロエ *Aloe* sp. (ユリ科)

地方名：イシャイラズ、イシャダオシなど

利用目的・方法：ほとんどの人が火傷に外用にしたり、胃薬として食べると回答した。地方名からわかるように、何にでも効くという回答も多かった。

当地区の露地で栽培可能なものはキダチアロエ (*A. arborescens* Mill.) にほぼ限定されるので、恐らくアロエという回答は本種を指すものと考えられる⁶⁾。しかし、ほとんどのインタビューの時に実物を見ていないので、本稿では「アロエ」とした。

アケビ *Akebia quinata* (Houtt.) Decne. (アケビ科)

地方名：アケビカズラ，アケビノカズラ

利用目的・方法：蔓を10~15cmの長さに切って、一方から息を吹き込み反対側から流出した樹液を目に異物が入ったときや目を突いたときに目に差すであった。以前の調査²⁾にも記録があるが、本植物には本来このような利用法はなく、本地区に伝承されるユニークな利用法の一つである。なお、本地区にはアケビの他、ゴヨウアケビ (*Akebia x pentaphylla* (Makino) Makino) なども自生しているが、インタビューの時に実物を見ていないため本稿では「アケビ」とした。

スギナ *Equisetum arvense* L. (トクサ科)

地方名：トウナ，ツクシなど

利用目的・方法：糖尿病，利尿薬として利用との回答が多かった。利用方法はツクシまたはスギナを乾燥して煎じるまたは茶にするなどが見られた。

ニホンザル *Macaca fuscata* (Blyth, 1875) (オナガザル科)

利用目的・方法：赤痢，血の道（女性の更年期障害）に利用するという回答が8割以上であった。他には産後の血の巡りをよくする，咳，痰，頭痛という回答があった。利用方法は肉を塩漬けにする，黒焼きにするなどがあり，使用部位は頭，手，脚，脳，肉一般などさまざまである。肉も焼いて食べる，みそ汁に入れるなどの回答があった。特に頭痛には頭の黒焼きを使うという回答を複数得ている。

これを民間薬に挙げた人のほとんどは，今は使わないまたは聞いただけと答えている。しかし，サルを調理すると非常に臭いので鍋を別にして調理したという話をした人もいることから，少数ながら，近年まで実際に利用されていたことが窺える。

4. おわりに

祖谷は非常に山深く，独自の伝承が多く残っていると思われたが，今回の調査からは，他地域に比べて特に民間薬が多いということはなかった。調査期間が短かったためもあるが，情報件数はこれまでの調査の中でも多い方であるにもかかわらず，品目数は最も少なく⁹⁾，偏りが大きかった。前回の調査では216種類の民間薬が確認されていることから²⁾，

もともと民間薬の利用が少なかったのではない。高齢化・過疎化が著しく進んだことなどにより伝承が十分になされていないことがその原因と考えられる。高齢者の多くが老人福祉施設などに入居しているため家に不在というケースも近年多く見られ，世代間の隔離も伝承の断絶に拍車をかけていると思われる。交通手段の発達により近隣の医療施設に容易に行くことができるようになった昨今，特に伝承の必要がなくなったと回答した人も少なからずいて，民間薬という伝承医療文化がまさに絶滅の危機に立たされているということを実感させられた。

しかし，そのような中でもアケビのユニークな利用法，サル，マムシなど動物薬利用などが今日でも伝承されていた。これら民間薬の利用に関しては未だに科学的研究が進んでおらず，新たに医薬品開発に大きく寄与する可能性もある。ただ，民間薬伝承は口伝であるため，利用がなくなると次世代には消失するものである。今回の調査で挙げた民間薬は多くが高齢者から得られた情報であり，その多くはすでに使われていない物であるため，次世代に継承されている可能性は低いと考えられる。民間薬調査での文字による記録は次世代に向けた医療文化の継承という意味において非常に重要なものであると考える。

参考文献

- 1) 内閣府共生社会政策統括官 (2006)：『平成18年版高齢社会白書』。
- 2) 東 丈夫，名越規朗，村上光太郎，鴨頭孝志，長岡一隆 (1972)：『総合学術調査報告 祖谷・松尾川流域 郷土研究発表会紀要 第18号』阿波学会・徳島県立図書館，66~81頁。
- 3) 阿部近一 (1990)：『徳島県植物誌』教育出版センター。
- 4) H. Melchior and E. Werdermann (1964)：“A. Engler’s Syllabus der Pflanzenfamilien. 2 Bd., 12. Aufl.” Verlag Gebrüder Borntraeger, Berlin；米倉浩司，梶田忠：『(2003-)「BG Plants and 名一学名インデックス」(YList)』http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html (2006年12月27日)。
- 5) 総務省統計局 (2006)：『平成17年国勢調査』。
- 6) 水野端夫，田中俊弘 (1995)：『日本薬草全書』新日本法規，189，240頁。
- 7) 難波恒雄，津田喜典 (1993)：『改訂第2版 生薬学概論』南江堂，225，352頁。
- 8) 湯川淳一，榊田長 (1996)：『日本原色虫食い図鑑』全国農村教育協会，305頁。
- 9) 徳島生薬学会 (2003)：『阿波学会紀要第49号 三野町総合学術調査報告』阿波学会・徳島県立図書館，88頁。

表 5

植物		ウド	茎
アカジソ シソ	全草 風邪*, 利尿*, 血液循環改善*, 夏ばて* 煎じる, 焼酎漬けにする, クエン酸と煮出す	ウド ウメ ウメ	頭痛* 味噌, 砂糖であえて食べる 果実 腹痛, 夏ばて*, 解熱*, 滋養強壮*, 打ち身* 焼酎漬け, 黒焼きにする 外用には汁と小麦粉を練って患部に貼る
アカネ アカネ	根 生理痛*, 血液循環改善* 煎じる	ウラジロガシ	葉 胆石, 肝臓疾患, 腎臓結石, 利尿, 胃腸薬 煎じて飲む
アサガオ アサガオ	葉, 花 鎮咳* 焼酎漬けにする	ウラジロガシ, カシ, カシノキ, シロカシ	
アザミ アザミ	根 解熱*, 高血圧*, 疲労回復* 煎じるまたは粉にして飲む	オウレン オウレン	根 胃腸薬*
アシタバ アシタバ	葉 頭痛*, いらいら* 煎じる	オモト オモト	果実 痔 生食する
アスナロ アスナロ, アスナロウ	葉 肝疾患, 腎盂炎* 煎じる, モッコクと混ぜて使う	カキドオシ カキドオシ	全草 疳の虫*, 糖尿病* 煎じる
アマチャヅル アマチャヅル	全草 高血圧* 茶料	カキノキ カキ	葉 高血圧, 血液循環改善*, 利尿*, 頭痛*, 腹痛* 煎じる, 焼酎漬けにする, 黒焼きにする, 茶にする
イタドリ イタドリ, イタズリ, イタンポ	外用には茎, 葉, 解熱, 鎮咳, 外傷, 胃腸薬, 利尿*, 腫れ* 煎じる, または外用	カシ カシ, カシノキ	葉 解熱 煎じる
イチイ アララギ, アラランギ, アロナギ	葉, 枝 胃薬, 肝疾患, 糖尿病, 痛風* 煎じる	カラスビシャク ホゼ	塊茎 喉の痛み*
イチョウ イチョウ	葉 痴呆の予防*, 高血圧*, 血液循環改善*, 頭痛* 煎じるまたは焼酎漬け	カラムシ ヒュウジ	根 神経痛* 梅干し, 小麦粉と合わせて練り, 患部に貼る
イワタバコ イワタバコ, イワジシャ, ヤマタバコ	葉 胃腸薬 生または煎じて服用, または, みそ汁に入れて食べる	カリン カリン	果実 止咳, 風邪 酒に漬ける, または煎じる
ウコン ウコン	根茎 肝疾患, 酒の飲み過ぎ* 干して粉にする	カンゾウ (甘草) カンゾウ	根茎 矯味, 歯痛* 他の苦い薬と混ぜて使う
ウツギ ウツギノキ, ウツゲ, ノリギ	枝 腹痛, 下痢 皮を剥いで中を舐める, または食べる, または煎じる	ククイモ ククイモ	根 糖尿病, 肝疾患* 薄切りにして湯をかけて飲む, または搗って飲む
		キササゲ キササゲ, カミナリオドシ	果実 腎疾患, 糖尿病* 煎じる

* 極端に情報数の少ない利用目的

表5 (続き)

キュウリ キュウリ	果実, 新芽 火傷, 暑気あたり 塩で揉んで出た汁を飲む 外用には汁を患部に塗る	ソバ ソバ	種子 高血圧 炒ったものに柿の葉を加えて煎じて飲む, または茶にする
キランソウ キンギンソウ, ホネツギグサ, イシャダオシ	葉 リウマチ*, 打ち身*, 耳痛* 揉んで汁を出して使う	ダイコン ダイコン	根 風邪, 解熱* おろして蜂蜜, 水飴と一緒に使う
クズ クズ, カズラノハナ	花, 根 肝硬変, 二日酔い, 糖尿病*, 風邪* 煎じる, 炒め物に入れる	ダイコンソウ ダイコンソウ	全草 胃腸薬, 心疾患, 風邪 煎じる
グミ グイビ	果実 夏に汗が出にくい時* モモ, ユスラウメと一緒に焼酎漬け	ダイズ ダイズ	種子 血液循環改善*, 暑気あたり* 焼酎漬けにする
クリ クリ	葉, 樹皮 かぶれ 煮出して患部に塗る	タケ タケ, タケノコ	皮, タケノコ 食あたりに吐剤*, 脚の痛み* 皮とユズの実を黒焼きにする, または蒸し焼きにする
コナラ ナラノキ	果実 熱冷まし*	タマネギ タマネギ	鱗茎の外皮 高血圧 煎じる
ゴボウ ゴボウ	腫れ*, 炎症*	タラノキ タラ	樹皮, 芽, 葉, 根 糖尿病 煎じる
ザクロ ザクロ	風邪*, 咳止め*	ダリア ダリア	葉 かぶれ* 搾ってそのまま患部に塗る
サフラン サフラン	雌蕊 解熱 茶にする	タンポポ タンポポ	根 胃薬, 風邪*, 肝疾患* 煎じる
サルトリイバラ サルトリイバラ	根 神経痛*	チシャ チシャナ	茎 止痛* 干して黒焼きにする
ジャガイモ ジャガイモ	塊茎 火傷* すりつぶして, ショウガのおろしたものと合わせる	チョロギ キクイモ	根 糖尿病
シャクナゲ シャクナゲ, シャクナン	花 腫れ*, 浮腫* 他の植物と配合する	ツゲ ツゲ	枝 腹痛* 皮を切り, 剥いで食べる
ショウガ ショウガ	葉 破傷風* 煎じる	ツチアケビ ヤマトウガラシ, ヤマトンガラシ	利尿*
スイカズラ スイカズラ, キンギンソウ	葉, 花 強壮*, 子供の中耳炎*, 薬の効きをよくする* 煎じる	ツツラフジ カズラ, ツツラ, ツツラカズラ	根, 蔓 胃薬, 肝疾患*, 心疾患* 煎じる
スイセン スイセン	鱗茎 打ち身*, 捻挫*, 腫れもの* すりつぶしてガーゼに搾り, 患部に当てる	ツワブキ ツワブキ	葉 傷*, 肩こり* 生の葉をそのまま患部に貼る
スモモ スモモ	果実 美肌 焼酎漬けにする		

表5 (続き)

テッポウユリ テッポウユリ	鱗茎 腎盂炎* トウモロコシのヒゲ, アスナロの葉と混ぜる	ヒガンバナ ヒガンバナ, マンジュシャゲ, マンジュサゲ	鱗茎 消腫, 消炎*, 打撲* すりおろして患部に貼り付ける
トウガラシ トウガラシ	果実 痔 レモンなどと焼酎に漬ける	ヒナタイノコヅチ イノコヅチ	新芽 強壯* 新芽をおひたし, ごま和えにする
トウモロコシ トウモロコシ, トウキビ, ナンバナケ	雄蕊(毛) 腎疾患, 利尿*, 高血圧*, 肝疾患* 煎じるまたは茶にする	ヒノキ ヒノキ	葉 肝疾患*, 殺菌*, 水虫* 浴用
トチバニンジン トチバニンジン, ケニンジン, テニンジン, ヤマニンジン, チョウセンニンジン	根茎 胃腸薬, 滋養強壯, 神経痛*, 肝疾患* 焼酎またはハチミツ漬けにする	ビワ ビワ	葉, 花, 種子 高血圧, 脚の関節痛* 煎じて飲む, そのまま貼り付ける, 浴用
ナス ナス	果実(へた) 食あたり*, 胸焼け* 黒焼きにして粉にする	フキ フキ	葉, 根 胃腸薬*, 高血圧*, 止血*, 発熱* 搾り汁を使う, または患部に直接貼り付ける
ナツメ ナツメ	果実 風邪 焼酎漬け	フクジュソウ フクジュソウ, ガンジツソウ	根 心疾患*, 風邪*, 自殺 煎じる
ナンテン ナルテン	風邪* そのまま飲む	フユイチゴ フユイチゴ	歯痛*, 痔*, 風邪* 煎じる, 小麦粉で練って患部に貼る(歯痛)
ニワトコ ニワトコ	地上部 腎疾患* キササゲの実, トウモロコシのヒゲと一緒に煎じて飲む	フユノハナワラビ フユワラビ	全草 歯痛, 婦人病* 煎じる, 茶にする
ニンニク ニンニク	鱗茎 神経痛* 焼酎漬け	ヘビイチゴ ヘビイチゴ	果実 止痒*, 虫さされ* 焼酎漬けにする
ネギ ネギ	葉 解熱*, 風邪* 胸に貼るなどの外用	ホウセンカ ホウセンカ, ノギノキ	葉, 花 喉に骨, (大麦の) 芒が刺さった時, 虫さされ, 滋養強壯*, 腹痛* 焼酎漬け, 酢に浸ける, 汁を搾る, 塩もみして丸飲みする
ネコヤナギ ネコヤナギ	止痛* 煎じる	ホトトギス ホトトギスソウ	心疾患* 煎じる
ノリウツギ ノリキ, ノリノキ	皮 切り傷 皮をむいて貼る	マグワ クワ	葉, 果実 リウマチ*, 神経痛*, 不老長寿* 柔らかい葉を使う。実は酒に漬ける。 麴と一緒に漬ければ不老長寿に
バイケイソウ ドス	根 皮膚病(でき物, かぶれ, 疥癬), ノミ・シラミ取り* 風呂に入れる, 煎じて塗る, 患部に貼る	マタタビ マタタビ, イシャイラズ	果実(虫瘦) 神経痛, 暑気あたり, 肝疾患, 疲労回復 焼酎漬けまたは食べる
ヒイラギ ヒイラギ	葉 糖尿病, 扁桃腺炎* 茶にする, 焼酎漬けにする	マツ マツ	葉 糖尿病* 焼酎漬け, 煎じる
ヒオウギ ヤカンソウ	膀胱炎*, 利尿* 煎じて飲む		

表5 (続き)

メグスリノキ メグスリノキ	枝, 幹 眼病, 肝疾患* 煎じる, または樹液を使う	オオスズメバチ オオスズメバチ	全体 蜂刺され* 焼酎漬け
モッコク モッコク	葉 肝疾患	カエル カエル	卵塊 火傷* 卵を水に浸けて腐ったものを患部に付ける
モモ モモ	果実 夏に汗が出にくい* グミ, ユスラウメと一緒に焼酎漬けにする	カラス カラス	全体 頭痛* 黒焼きにする
ヤーコン ヤーコン	全草 糖尿病*, 血圧*, 便秘*	カワガラス カワガラス, カワサンザイ, サンザイ	全体 更年期障害, 頭痛 黒焼きにする, 生血を飲む
ヤマアイ ヤマアイ	根 がん*	キジ キジ	脚部 とげ抜き* 脚の皮を干して外用
ヤマアジサイ ヤマアジサイ	地上部 腹痛* 煎じる	コイ クロコイ	全体 催乳* みそ汁に入れて食べる
ユキノシタ ユキノシタ, キンギンソウ	葉 耳痛, 中耳炎, 火傷, 解熱 耳疾患には揉んで耳に詰める, 搾り汁を耳に入れるなど 火傷などには油に漬けた葉を患部に貼る, 塩で揉んで患部に貼るなど	サワガニ サワガニ	全体 ウルシかぶれ* スギナと一緒にたたいて布で搾る
ユズ ユズ	果実 食あたりの吐剤* 実とタケの皮を黒焼きにする	サンショウウオ サンショウウオ	全体 疳の虫, 気管支炎* 焼く, 黒焼きにする
ユスラウメ ユスランメ	果実 夏に汗が出にくいとき* グミ, モモと一緒に焼酎漬け	シマヘビ シマヘビ, タヅジマ, カラスヘビ, ナガムシ	全体 肋膜炎, 結核 黒焼きにする, あぶって食べる
動物			
アオゲラ アカガシラ, キツツキ	全体 頭痛, 婦人疾患 (更年期障害) 黒焼きにして飲む, または煎じる	タヌキ タヌキ, タヌキノアブラ	脂 火傷*, あかぎれ* 脂を温めて塗る
イノシシ シシ, イノシシノユウ, イノシシノキモ, シシノユウ	胆嚢 胃腸薬, 肝疾患 乾燥して削って使う	ツキノワグマ クマ, クマノイ, クマノユウ	胆嚢 胃腸病, 解熱 乾燥したものを適当に切って湯に入れるまたは食べる
ウコッケイ ウコッケイ	卵 糖尿病* 卵を殻ごと酢に浸けて, 殻を無くしてから食べる	ナメクジ ナメクジ	全体 痔, 胃腸薬 生のまま食べる 外用としては小指ぐらいのものを塩で溶いてガーゼで患部に貼る
ウサギ ウサギ	頭部 頭痛* 黒焼きにする	ニホンヒキガエル カサゴート	全体 疳の虫* 煮て食べる
ウスバカゲロウ アリジゴク	幼虫 (アリジゴク) 肋膜炎* オブラートに包んで飲む	ニワトリ タマゴ	卵 二日酔い* 卵酒にする
ウマ バユ	けが, 喉の痛み 馬油のことと思われる		

表5 (続き)

ハチ ハチ, ハチオコシ, ハチノコ	成虫, 幼虫, 蜂蜜 蜂刺され, 血液循環改善*, 滋養*, 鎮 咳* 焼酎漬け, 蜂蜜漬け, 生ですりおろす	その他 コフキサルノコシカケ サルノコシカケ	子実体 がん 煎じる
ヒト ショウベン	尿 風邪* 尿をそのまま飲む	枯れ葉 カレハ	肌によい* 浴用
ムカデ ムカデ	全体 ハチ, 虫さされ 油漬けにする	動物薬 サンショウ サンショウ	枝 アメゴを捕る* 皮を剥いて粉にして川に流すと魚が死 ぬ
メジロ メジロ	全体 肋膜炎* 缶に入れ, 赤土で密閉して黒焼きにす る	シロバナムシヨケギク ジョチュウギク	全草 殺虫* 干して畳の下に入れる
モグラ モグラ	全体 喘息, 腹痛* 黒焼きにする	テンナンショウ ヤマコンニャク	便所の殺虫*
鉱物		赤土 アカツチ	ウシの発熱* 水を加えて土を沈殿させ, 上澄みを飲 ませる
石 イシ, イシコ, カワイシ	蜂刺され 粉にして塗る		
加工品			
イリコ イリコ	かぶれ 塗る		
ウメボシ ウメボシ, ウメ	暑気あたり そのまま食べる, 焼酎漬けにする		
カキシブ カキシブ	外傷* アルコールと混ぜて使う		
スルメイカ スルメイカ	火傷		
タバコ キザミタバコ	止血* 外用		
醤油 ショウユ	火傷* 外用		
塵埃 タモトグソ	止血* 傷口に付ける		
竹瀝 チクレキ	疲労回復*, 子供の風邪* 飲む		
梅酢 ウメズ, ウメノス	打ち身 小麦粉を混ぜて塗る		
味噌 ミソ	火傷* 外用		